

2 学年社会科学学習指導案

授業者 菅原 実

- 1 日時 平成16年10月5日(火)
- 2 学級名 2年3組(男子21名,女子18名,計39名)
- 3 主題 第2編 第3章 世界の国々の調査 「2 多様な文化と変容するマレーシア」
- 4 主題について

(1) 単元について

学習指導要領社会科の地理的分野の2の内容「(2) 地域の規模に応じた調査」の「ウ 世界の国々」では、「地理的事象を見いだして追求し、地域的特色をとらえさせるとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。」ことを主なねらいとしている。

生徒たちはこれまで第2編「地域の規模に応じた調査」の学習の中で、「身近な地域の調査」と「都道府県の調査」について学び、市町村規模及び都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けてきた。

本単元では、それらの学習を基にしながら、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法への理解を深めるために、「君も名(謎?)コピーライター ~マレーシアの特色を表すキャッチコピーを考えよう~」と題して、問題解決的な学習を行う。これは、生徒を興味・関心に応じて6つのグループに分け、文献や統計資料の調査、インターネットでの検索などの調査活動を行い、それぞれのグループがマレーシアの地域的特色を明らかにし、それを受けて生徒一人一人がキャッチコピーを考えていくというものである。この学習活動は、それぞれのグループが自分たちの課題について自由に調査したりまとめたりすることができるために意欲的な学習態度が期待される。また、調査活動で得た情報をまとめ、それをいかに効果的に表現するか創意工夫が試される(技能・表現)。マレーシアについて、調査活動から得た情報や生活、産業、社会構造などから多面的に関連させてとらえることが要求される(思考・判断)などの点で、社会科で培うべき能力の育成には有効なものであるといえる。

本単元で取り上げるマレーシアは、生徒にとってはなじみの薄い国であり、もっている知識は多くない。しかし、身近なところにマレーシア製品を発見できたりする国である。多民族・多言語・多宗教であったり、植民地として他国の支配を受けた歴史をもっていたり、近年急速に工業化が進んだり、日本と異なる背景をもつことから、生徒が「もっと調べてみたい」と意欲をもちやすい地域であると考えられる。また、予備知識が少ないことによって、より自由な発想で調査・まとめに取り組み、具体的な根拠に基づいて地域的特色をとらえることができると考える。

(2) 生徒の実態

生徒の学習への取り組みは良好であり、学習シートやノートへの記入もしっかり行っている。積極的な姿勢で授業を受けている生徒が多く、挙手をして発言する生徒も次第に増えてきている。しかし、聞き覚えていることへの反応が多く、問題意識や問題を解決するための深まりと結び付かないことも多い。さらに、発言が一部の生徒に限られてしまいがちな傾向もある。そこで、日常の授業でも資料の活用を通して深い読み取りや読み取ったことを基に思考し、自分の意見を整理して発表するように心がけて実践している。また、課題解決のために資料を探したり作成したりする活動が効率的にできない生徒もあり、グループ学習による教え合いを通して、「学び方」を身に付けさせるように配慮している。

(3) 指導の構想

本単元の学習は、「学ぼうとする力」を育てるために、問題解決的な学習の学習過程を「オリエンテーション」、「課題の設定」、「調査活動」、「発表の準備」、「発表・まとめ」という流れで進めていく。

「オリエンテーション」の段階では、大まかな学習の流れを説明し、単元全体の学習活動の見通しをもたせる。VTR資料を活用してマレーシアという国に対する興味を喚起し、個人で調べてみたいテーマを考えさせる。

「課題の設定」の段階では、個人で立てたテーマを基にグループの学習課題を設定させる。その際、何を明らかにしたいのか(追求目的)・何を調べるのか(追求内容)・どのように調べるか(追求方法)といった学習計画をしっかりと考えさせるようにする。

「調査活動」の段階では、前段階での計画に基づいて実際に調査活動を行う。その際、文献や統計資料の調査、インターネットなどを活用させながら多角的に調査活動を行わせるようにする。

「発表の準備」の段階では、調査活動で分かったことを効果的に表現できるように、まとめ方や発表の方法を検討させる。その際は生徒の自由な発想を重視し、その意見をよりよい方向に導きながら作業を進めさせる。

「発表・まとめ」の段階では、発表する側の生徒に対して、内容が分かりやすく印象的なものとなるように、生徒それぞれの役割分担を明確にさせ自信をもって発表できるように指導・援助を行う。聞く側の生徒に対しては、自分たちのグループの調査内容と比較させ、マレーシアという国の特色は何かを考えながら聞くようにさせる。そして、全てのグループの発表が終わった時点で、各自にマレーシアの特色を表すキャッチコピーを考えさせる。その際、具体的な理由も挙げさせるようにする。

5 単元の目標

- (1) 関心・意欲・態度...マレーシアという国の特色について意欲的に調べ、発表することができる。
- (2) 思考・判断.....マレーシアの背景・現状を把握し、具体的な根拠に基づいてキャッチコピーを考えることができる。
- (3) 技能・表現.....文献や統計資料，インターネットなどからの情報を活用し、マレーシアの特色を効果的に表現することができる。
- (4) 知識・理解.....国家規模の地域的特色をとらえる方法を具体的につかむことができ、調査結果を効果的にまとめる方法をつかむことができる。

6 指導計画（8時間扱い）

- (1) 「オリエンテーション」
学習のおおよその進め方を理解し、個人で調べてみたいテーマを設定する.....1時間
- (2) 「課題の設定」
グループごとに学習課題を設定し、具体的な学習計画を立てる.....1時間
- (3) 「調査活動」
文献や資料，インターネットを活用して、必要な情報を収集する.....2時間
- (4) 「発表の準備」
調査活動で分かったことを効果的に伝えられるように発表の準備をする.....3時間
- (5) 「発表・まとめ」
調査活動の結果を発表し、
お互いの発表を基にマレーシアの特色を表すキャッチコピーを考える...1時間（本時）

7 本時について

(1) 本時の目標

- ア 意欲的に調査結果を発表するとともに、
マレーシアのキャッチコピーを考えようとするすることができる。（関心・意欲・態度）
- イ 具体的な理由を挙げて、マレーシアの特色を表すキャッチコピーを考えることができる。（思考・判断）
- ウ 自分たちが調査した結果を、効果的に表現することができる。（技能・表現）

(2) 研究主題にかかわる本時の構想

- ア 課題提示の工夫
 - ・導入部において、マレーシア国歌やゴムの木などの視覚・聴覚に訴える資料を提示することによって、マレーシアという国に対する生徒の関心を高め、本時の学習に対する意欲を喚起することができると考えた。
- イ 学習過程の工夫
 - ・単元を通して学習シートを活用し、生徒に自らの学習過程を振り返らせることによって、課題解決への見通しをもちながら学習に取り組めると考えた。

8 本時の展開

: 学習課題

: 予想される生徒の反応

関：社会的現象への関心・意欲 態度

思：社会的な思考・判断

資：資料活用の技能・表現

知：社会的現象についての知識 理解

段階	過程	学習活動	指導上の留意点	評価の場面と 具体的評価基準	教材・教具
導入	5分	1 本時の学習課題を把握する マレーシアの特色をつかみ、キャッチコピーを考えよう！	1 視聴覚資料を提示し、マレーシアに対する関心を高め、本時の活動への意欲をもたせる。 各グループの発表を基に、マレーシアを象徴するキャッチフレーズを考えることを説明する。	関：学習課題に関心をもつことができたか。	掛地図 マレーシア国歌 ゴムの木 紙板書
		2 本時の活動の見通し	2 学習シートを基に、発表会の進め方や学習シートへの記入方法を理解させる。		
展開	35分	3 課題解決のための活動 (1) グループごとに調べた内容を発表する (2) 発表に対する質問を行う (3) キャッチコピーを考える ・広がるフロンテーション マレーシア ・モノカルチャーからワワサンへ ・共存する国マレーシア ・ゴムゴムのお～国 ・やしからナテラ (4) お互いの考えを交流する	3 (1) 声の大きさや発表の態度などに留意させ、発表内容が確実に伝わるようにさせる。 発表の要点や疑問点・質問事項などを学習シートに記入させながら、各グループの発表を聞かせる。 (2) 自分が記入した学習シートを基に、質問事項を具体的に挙げさせる。 他のグループへの質問とそれに対する返答をしっかり聞かせる。 (3) 各グループの発表を踏まえ、具体的な理由を挙げながら、マレーシアのキャッチコピーを考えさせる。 机間巡視をし、キャッチコピーを考える視点についてアドバイスを与える。 (4) なぜそのキャッチコピーを考えたのか理由を挙げさせながら発表させる。	技：発表資料を基に、調査内容を効果的に表現することができたか。 思：具体的な理由を挙げながら、キャッチコピーを考えることができたか。	発表原稿 発表資料 学習シート 学習シート 学習シート
		4 本時のまとめ (1) 自己評価 (2) 相互評価 (3) 発表	4 (1) 本時の学習を振り返り、自己評価を行う (2) 他のグループの活動を前向きに評価させる (3) 指名して発表させ、全体の活動を前向きに評価する		学習評価カード
最終	10分	5 次時の予告	5 次時の学習内容を知らせる		

社会科地理的分野における評価規準と具体の評価規準

単元	到達目標	評価規準	観点	具体の評価規準	評価	評価方法	
第2編 地域の規模に応じた調査 第3章 世界の国々の調査	2 テーマを決めて調べよう 〔多様な文化と変容するマレーシア〕 ① マレーシアの特色と多様性 ② 植民地とモノカルチャー ③ マレーシアの近代化 ④ マレーシアの今とこれから	・テーマを設定して追究する活動を通して、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けることができる。	関心	マレーシアに関する地図や統計、その他の資料を自ら収集しようとし、高い関心を持ってその地域的特色をとらえようとしている。	A	・発言 ・行動観察 ・自己評価	
				マレーシアに関する地図や統計、その他の資料を用いて調査に取り組み、その地域的特色をとらえようとしている。	B		
				各自の調査課題にそった地図や統計、その他の資料を提示し、地域的特色をとらえる視点を与えるを通して、前向きに調査活動を行おうとする意欲を持たせる。	C		
			マレーシアの地理的事象から課題を見出し、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて、気候、人口、民族、文化、農業など多面的な視点から追究するとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察することができる。	思考	マレーシアの地理的諸事象を、位置や空間的な広がりとのかわりてとらえ、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて的確な複数の視点から考え、学習課題に対し、明確な根拠をもとに結論を出すことができる。	A	・発言 ・行動観察 ・学習シート ・レポート ・発表内容
					マレーシアの地理的諸事象を、位置や空間的な広がりとのかわりてとらえ、学習課題に対し、明確な根拠をもとに結論を出すことができる。	B	
					学習課題に対し、収集した資料の持つ意味を考えさせ、他の意見を参考に、決められた視点から考察が進められるようにさせる。	C	
			マレーシアに関する地図や統計その他の資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、マレーシアの地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりすることができる。	技能	マレーシアの特色をとらえるために、様々な視聴覚資料を活用したり、地図や統計から有用な情報を適切に選択し、グラフ化や地図化などを通して的確にまとめ、発表することができる。	A	・発言 ・行動観察 ・学習シート ・レポート ・発表内容
					マレーシアの特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、まとめたり発表したりすることができる。	B	
					資料の中で学習課題を解決するために必要な情報は何か、他の発表から考えさせたり、疑問点を挙げさせたりする。	C	
			マレーシアの地域的特色とともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付けている。	知識	マレーシアの地域的特色を理解し、その知識が地域の自然的・社会的・文化的条件や他地域との結びつき、人間との営みとのかわりに着目したものであり、なおかつそれをまとめる方法が他に応用できる。	A	・発言 ・行動観察 ・学習シート ・レポート ・発表内容
					マレーシアの地域的特色を理解し、その知識が自然的・社会的・文化的条件に着目したものであり、なおかつそれをまとめる方法が身に付いている。	B	
					マレーシアの地域的特色を調査した資料に基づいて理解させ、そのとらえ方を学ばせながら、自分の学習を前向きに評価させる。	C	